

# 生産者通信

NPO法人  
米ニケーションセンター  
定価 100円(送料込)

## 猛暑 | 集中豪雨 | 異常気象に負けない米作り

# 経験をあてにせず、自分の目で確認を!!

何とも耐え難い猛暑が続いています。各地で猛威をふるった梅雨時の集中豪雨の被害も、新潟県内ではほとんどなくて早々と梅雨明けとなりました。

しかし、その後の晴天続きと暑さは半端ではありませぬ。異常気象の特徴は片降り、局所的な集中豪雨だともいわれていますが、まったくそのとおりです。

今日時点では幸いにしてまだ、農業用水不足のニュースは聞かれませぬので、程ほどには用水が足りているのかなと安堵しています。お陰で、遅れ気味だった水稲の生育も、どんどんと早まっているようです。当柏崎地域は例年出穂が早いのですが、早生のこしいぶきは7月27、28日、コシヒカリは8月5、7日が出穂となりました。

5日には米穀データバンクの作況指数が発表されましたが、全国、新潟共に102の「やや良」でした。

充分な日照時間が確保され、澱粉の生成が活発で登熟歩合が増して豊作に結びつくとの判断でしょう。

しかし、「予想収穫量は848万トン、需要予測は約43万トン上回る。10年産新米と9年産の古米を合わせ需給の環境は70、75万トン程度の過剰見込み」、「10年産も(米価)の下落が続く可能性がある」と厳しい需給状況も合わせて報じられており、「素直に豊作を喜べない現状が突きつけられています。今年度から始まったコメの個別所得補償制度がどのよう機能し、効果を発揮するかが問われることになるでしょう。

地域的には青虫の大発生があり、止葉が無残に食害されてしまった、あるいは、この晴天高温にも係わらず、罹病しないはずのBLSコシヒカリにイモチの発生が問題になったりしているというところで、従来の経験からは考えられない事象がおきているようです。

一方、今年も個人的に気に係ることが二点あります。高温化下における出穂による米の品質と穂肥時における生育判断についてです。

今年、おそらく県内総



てのお地域で、こしいぶきもコシヒカリも35度近い高温下での出穂になってしまいました。これまで出穂以降の高温が、玄米の乳心を発生させて品質の低下を招くといわれてきました。

そのためにJA等を中心に高温時の出穂を避けようと、5月10日以前にはコシヒカリの苗を出荷しないなどの対応がおこなわれてきました。そんな努力も今年の天候ではまったく意味がなくなっていました。

作況指数が良くても、収量が多くなっているにもかかわらず、品質に問題があるようでは困ります。ただ、乳心白粒は玄米や白米の「見た目」の問題だけでなく、以前から乳心白粒による食味のクレームは出たことがないといわれてきました。しかし、乳心白粒の混入をモチ米の混入と見誤ってしまう消費者がほとんどであることを考えると対応は難しくなっています。

ただ、昨年の当地域のコシヒカリの出穂も最悪の高温下でした。当然乳心白粒が大発生するであろうと想定していましたが、収量が少なかつたのはそれ以前の日照不足のためだと思われるのですが、乳心白粒はまったく発生せず県内最高の1等比率になりました。その理由をあちこち聞き回ったのですが、とうとう明確な答えにたどり着くことができませんでした。従来の経験が当てはまらなかつたのであり、今年も調製してみるまで判らないということになりそうです。

もう一点、穂肥指導の際に「草丈が長めだから、1回目の穂肥は遅め、少なめ」との指導がおこなわれました。一般論としては極めて正しい判断だと思えます。

しかし、例えば草丈90センチの稲であっても、止葉が短くて下位の第4、第5節間が伸びているものと、止葉を含む上位葉が長くて、

**資源の活用!**

**玉子の殻**を活用してみませんか?

20kg・フレコンパック

詳しくはご連絡ください

下位節間の詰まって短いものでは稲の資質がまったくと違ふということ。どちらの稲が資質に優れているのかはいうまでもありませんが、茎の太さや穂の長さも当然連動しています。一般的な統計数字や、指導を鵜呑みにして施肥量や作業計画を立ててはならないというところでしよう。最後は自分の目で稲姿をしっかりと確認することが大事です。

ここまでくると、私たちにできることは「水管理」だけになりました。最後まで自分の喉同様に稲も潤してやりたいものです。

内山常蔵記

Agri-s の



農機メンテの部屋

Vol.10

連日の猛暑の中、農作業中に熱中症で体調を崩された方もおられるようです。また、一部水不足の声も...。7月末の民間機関発表で米の作況指数が106の北海道をはじめ東日本は概ね102~104という予想。そんな中で、宮城の知人よりの連絡。聞けば、台風などの影響がなければ豊作は間違いなさそうだが、すでに、それに伴い価格が下方修正された、とボヤいていました。また、今秋登場のM社コンバインで生研機構との共同開発の新素材使用の選別部を搭載して今までにない、わら湿度70%程度、籾水分25%でも作業可能とするコンバインの受

注が多いと聞きました。これは早場米の九州地方でかなり評判になってきているようです。また、新潟県内でも朝露で濡れて作業開始が遅くなるような条件の農家にはうれしい装備になりそうです。

収穫機械の準備

\*\*\*\*\*

昨年、収穫後整備をされているコンバインは、基本的にはエンジンオイル等の確認、および機内のネズミ侵入被害のチェック程度で良いかと思えます。昨年の格納時に不具合箇所等をチェックされていない場合、まず、機体内部の清掃から始め、オイル等のチェック、チェーンの張りの確認。各刃物の摩耗度。足回りについてはグリスアップは十分にグリス注入、無給油式の足回りタイプは、ジャッキアップをして各車輪のガタのチェックを行うと同時にクローラの張りの調整も。また、各ベルト類の点検時においてはベルトを外すか、少し回しての亀裂の有無(プリーリーの陰に隠れて一ヶ所が切れかかっていたケースも有り)。

作業場内機械

\*\*\*\*\*

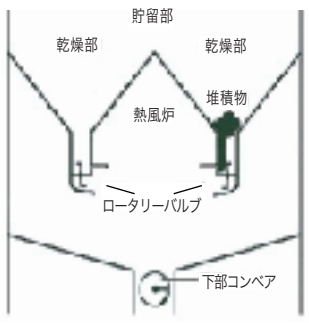
作業場内の機械設備は、今摺り米で定期的な粗摺り、精米作業を行っている方では常に清掃等がされているので余り問題はないと思えますが、秋出荷のみ、という方は、秋以降ほとんど作業されていない為、コンタミ防止の観点からも徹底した清掃等が必要です。

乾燥機

\*\*\*\*\*

まず作業場のコンセントの確認、動力200V三相電源においてコンセント、プラグの接触不良で、ブレーカーが落ちる場合があるのでコンセントの受端子の広がりがないか、プラグ端子とコードの接続不良がないかテスターで抵抗を確認。さらに、通電してテストターで200Vを確認します。清掃は機体上部から清掃し、各コンベア等内に残留物があればきれいに清掃し、昇降機バケットの摩耗、破損のチェック、ベルトの亀裂チェック、最後に

燃焼テストを最大火力で行って温度が上昇するか確認してください。(旧式タイプではポンプ不良で燃圧が上がらず最高温度まで上がらない場合もありました。)前年度の清掃不良でロータリーバルブからモミ落下量が少ない、または落ちないなどの場合はバルブ上部の通路もしくは、バルブケース内の詰まりが原因です。



\*\*\*\*\*

今回は、多く使われていると思われるロール式ゴムロールの交換時期について。ほとんどが同径タイプを採用されていて、ギアで片側を減速して回転差で粗穀をむくという方式です。このゴムロールは大体600依程度で摩耗してきます。この交換時期は金属部よりゴム部が1/3程度なら交換したほうが効率的です。ゴム部が薄くなる程、

破砕米の発生が増加し、ロール周速度が低下すると共に作業能率が低下します。\*\*\*\*\*



\*\*\*\*\*

選別機・計量器 構造的には簡単な機械です。清掃用の蓋、スクリーン網等は外してエアブローしておけば良いと思います。また、この機械もネズミの被害は有り得るようで、特に電気配線で秤からの信号ケーブルの食害で計量数値の誤差、数字のバラつき、シャッターが閉まらない等のトラブルがあります。こういう信号ケーブル類を途中で継ぎ足しなどすると計量誤差等があるのでケーブルASSY交換となります。確認時に基準分銅

でテストしてみてください。 追記 春から施行されている、米トレーサビリティ法の関係で今まで以上にコンタミ問題がクローズアップされていますので、収穫調製段階でも気を抜かず機械等の清掃は丁寧に行いましょう。 点検時の安全確保 先日、ある作業場内の点検にて高さ10m程の所で作業中、足を滑らせ、あわや落下のところでした。が幸いにも命綱のおかげで無事でした。慣れていてもこの様な事も起こり得るので皆さんも高所作業時は気を付けて下さい。 Agri-s 記